

水稻収穫量調査の見直しについて（作況指数等）

- 水稻収穫量調査については、統計値が生産現場の実感とかい離があるとの声が多く、生産者の方々と生産者団体、地方自治体と意見交換を実施し、要因を把握。収穫量、作況指数、ふるい目などについて様々なご意見。
- 令和7年産より作況指数について、近年の高温等気候変動を十分反映した指標である作況単収指数に移行するとともに、高温等が米の供給量に影響を与え得ることを踏まえ、坪刈りサンプルから把握できる白未熟粒や着色粒等の割合を参考情報として提供。

① 作況指数から作況単収指数に移行（10月中旬公表分～）

旧

～令和6年産

作況指数

収穫量全体を平年と比較したものとの認識が多い

$$= \frac{10\text{a当たり収量}}{10\text{a当たり}\textbf{平年}\text{収量}} \times 100$$

(過去30年のトレンド)

直近の収量と比較する生産者の実感とズレ

新

令和7年産～

作況単収指数

収穫量全体を対比したものでないことを明確化

$$= \frac{10\text{a当たり収量}}{10\text{a当たり}\textbf{平均}\text{収量}} \times 100$$

(前年産までの5年中3年平均)

② 白未熟粒、着色粒等の割合公表（11月中旬公表分～）

坪刈りしたサンプルを器械にかけ、**白未熟粒、着色粒、胴割れ粒等の割合**を生産者の選別によってははじかれることとなる米の割合の**参考情報として公表**。

水稻収穫量調査の見直しについて（ふるい目幅）

- 令和7年産より生産現場の認識を踏まえ、ふるい目を見直し、新たに生産者ふるい目での主食用収穫量を公表。

③ふるい目幅の見直し（10月中旬公表分～）

生産現場の認識を踏まえ、都道府県ごとに最も使用されている**生産者ふるい目（1.85、1.90mm等）**で新たに主食用**収穫量を公表**しつつ、引き続き**1.70mmの収穫量も公表**。

生産者ふるい目
（1.85mm等）

1.70mm

